

滋賀県立

聴覚障害者センター

だより



—109号—

発行日／令和5年4月10日

発行所／草津市大路2丁目11-33

TEL 077-561-6111

FAX 077-565-6101

HP <https://shigajou.or.jp>

新年度を迎えて

～初心忘るべからず～

滋賀県立聴覚障害者センター 所長 中西久美子



2023年度がスタートしました。今日から新しいメンバーが

入ります。ぜひ温かく迎え入れていただき、新しいメンバーから新しい視点での意見を感じ取ったりお互いに高め合っていたらと思っております。新たな発想、変革のキツカがあるかもしれません。2023年度のテーマは、【誰も一人残さない、誰でも社会参加できる共生社会をめざして】です。新型コロナウイルス感染症が拡大し始めてから3年余りが経ち、「新しい生活様式」の中にはあ

る程度私たちの暮らしに定着しつつあること、なかなか定着しにくいことなどがあるように思います。特に、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法制定によって、アクセシビリティに関する理解が進む中で「手話言語」や「手話通訳」という言葉もごく普通に使用される場面が増えてきました。きこえない・きこえにくい人たちのアクセシビリティ向上のために、あらゆる場面でコミュニケーション保障や情報保障を安心して提供していけるように進めてまいります。

また、コロナ禍をきっかけに、オンライン研修、会議が増えましたが、

【新規採用】

滋賀県立聴覚障害者センター 山瀬 鋭了

(P3に掲載)

【人事異動】

滋賀県立聴覚障害者センター 中西 俊喜

4月より湖北みみの里から異動してきました。当法人に入職して8年が経ち、9年目に入ります。

センター業務は、びわこみみの里、湖北みみの里で経験してきた内容とは違うので、1年目と思って頑張りたいと思います。

【退職】

滋賀県立聴覚障害者センター 山口 健二

この度、2023年3月31日をもって、滋賀県立聴覚障害者センターを退職し、自宅のある九州へUターンすることになりました。皆様には入社から今までご指導をいただき、大変感謝しております。今後も皆様からご指導いただいたことを大切にしてこれからも頑張っていきたいと思っております。また、ここで学んだ業務知識や聴覚障害者運動等を地元還元出来るよう頑張っていく所です。最後になりますが、皆様の今後のご活躍を祈念しております。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

ICT機器の活用が高齢聴覚障害者へどのようにサポートしていくかなど新しい課題も出ています。当センターの力だけで、全ての課題を解決することはできませんが、当事者団体や支援団体等との信頼関係を深め

るとともに多様な視点、知識、スキルを持った多様な主体が結びつくことで、新しい取り組みへとつなげていくことを邁進してまいりたいと思います。引き続きご協力のほど宜しくお願い致します。

新規登録者の紹介

手話通訳者・要約筆者

◆手話通訳者◆

菊地 映美さん



熱いご指導と多くの応援を有難うございました。今後もどっぷり漬かり、学び、お役に立てるなら幸いです。宜しくお願いします。

◆要約筆者◆

砂永 英里子 さん



「要約筆者として皆様と関わりが持てることをうれしく思います。役割を十分に果たせるよう努めてまいります。」

岡野 仁美さん



たくさんの方々にも励まされ、支えていただいたことに感謝申し上げます。

山本 拓佳 さん



以前より、学術場面等で情報保障を行う団体で活動してきました。

この気持ちを忘れずに精進していきます。よろしく願います。

堀井 真由美 さん



周囲の皆様のご支援に、お礼申し上げます。今後も経験を重ね、学んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

山口 南帆さん



いつも厳しく温かいご指導をありがとうございます。これからも学びを怠らず、必要とされる手話通訳者を目指したいです。



デフバレーの魅力

～耳の聞こえない仲間とスポーツを楽しむ～



記録的大雪の後日、1月29日曜日、滋賀県立障害者福祉センターにて「2025年わたしたSHIGA輝く国スポ・障スポ手話・要約筆記ボランティア養成事業啓発セミナー」を開催しました。2年後滋賀県で開催される国スポ・障スポでの手話・要約筆記ボランティアを募ることを目的としています。当日はとても良い天気に恵まれ、約60人の参加がありました。

内容からデフバレーのあるある話まで。ユーモアあふれるお話に参加者からは笑い声があがっていました。講演後はアリーナでソフトバレーボールを使ったバレーボール体験とチームメンバーとの交流会。「ボールに触ったのは30年来」と久しぶりの運動を楽しんでもらえたようです。スポーツを通し、聴覚障害を知る一日になったのではないでしょう。

まず、滋賀県デフバレーボールチーム代表の岡本英樹さんによる「デフバレーの魅力」と題した講演。ご自身の体験を踏まえたろう教育に関する

今年2023年からいよいよ手話・要約筆記ボランティアの一般募集が始まります。より良い大会を目指し、多くの方々への応募を期待します。

登録手話通訳者研修「映像の手話通訳」

ポイント「私は誰?!」と「。」

令和5年3月11日（土）に滋賀県立聴覚障害者センター研修室にて登録手話通訳者研修を行いました。「映像の手話通訳」というテーマで、認定の法人障害者放送通信機構の番組制作ディレクターである柳喜代子さんを講師にお招きしました。

テレビ放送通訳は、テレビ画面にワイプ挿入される手話通訳です。基本的には制作された映像にあわせて手話通訳は別に収録されます。ところが昨今は、舞台上など対面通訳の映像をそのままオンライン画面に入れたり、同時通訳が配信されるなど、通常の通訳場面でありながらテレビ通訳技術が求められるようになりま



した。テレビでは複数の人が画面に登場します。また、一人しか映っていない画面でも、複数の音声が発せられることもありま

す。これらを一人で通訳する手話通訳者にとって「私は誰?!」。また、手話を見ている聴覚障害者にとって「話し手は誰?」となります。これがポイント。話し手の明確化、さらに「文の切れ目」が大切というお話など、映像に組み込まれる手話通訳のポイントやコツをテレビ通訳の経験や制作の立場からお話いただきました。

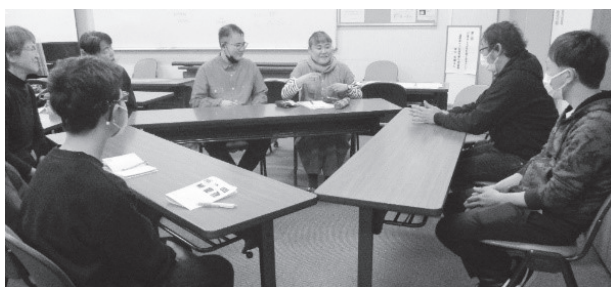
実際に課題収録をした5人の方の手話通訳映像を参考に、受講生たちは、視線を含めた顔の表情、手を大きく使う表現、うなずきやリズムなど、個々の技術を振り返りながら「きれいに見える工夫」を学習しました。さらに、講師の具体的なアドバイスを聞きながら確認し、実際に手話通訳者どうしで手話表現をして感想を伝えあいました。

どんな場面の通訳にも共通するポイントが多く、具体的な説明や、実際の映像を見ながらのアドバイスはとても参考になりました。「普段の通訳に活かしたい」「自分でも映像を撮って確認したい」など大変好評で、通訳者の意欲向上に役立つ研修となりました。次年度も健康・知識・技術・倫理の4本の柱で研修を行い、研鑽していきます。

青年講座聴覚障害の若者をつなぐ

3月25日（土）午後1時から4時まで近江八幡市男女共同参画センターにて青年講座を開催しました。青年講座はろうあ協会青年部を中心に、龍谷大学手話サークルのメンバーと一緒に企画しています。今年度のテーマは「聴覚障害の若者のネットワークを広げる」です。仕事をしている青年たちの他に、進学・就職を控えているお子さんや保護者にも参加してもらい、社会生活について思っていることを話す場づくりを目指しました。そのため、聾話学校や地域の難聴学級にも呼びかけ、ロールモデルとの出会いの場にしてほしいと願いました。

当日の参加者は保護者7名、学生10名、一般5名でした。青年部長の深江尚輝さんの講演のあと、グループに分かれての話し合いは参加の保護



グループワーク：青年部会員が良いロールモデルとなって語り合っています。

者さんにも大変好評で、時間が足りなかったとの声もありました。今回は、第二部としてもう一コース設けました。それは春休み中のお子さんを招待して、龍谷大学手話サークル会員と青年部が考えた手話をつかったレクリエーションです。参加者は少なかったのですが、手話を通して楽しく交流ができました。地域の学校に進む聴覚障害者のお子さんが増えています。それでも同じ聴覚障害の仲間がいることが、安心できるコミュニケーションのためにとっても大切だという、青年部の思いがこの日はしっかり伝わったと感じました。

日曜教室 エコ・クッキング

～地球にやさしいクッキング？ やってみました～

3月27日（月）午前9時30分から12時まで、キラリエ草津にてエコ・クッキングを体験しました。地球にやさしい調理方法をわかりやすくお話いただいたから、調理の仕方（材料の切り方など）に終わらず、片付けのコツも教わりました。参加者は14名で、親子の参加が6組でした。

大阪ガスの3人の講師があらかじめ食材をテールブルごとに分け、途中うまくフォローしていただきながら順調に進みました。メニューは、ご飯、味噌汁、ふりかけ、野菜炒めです。ふりかけはだしをとったあとの鰹節から、味噌汁に入れるダイコンは葉も捨てません。

野菜炒めのキャベツは芯も刻みました。チラシで作ったゴミ箱に入れた野菜くずも教材になり、廃棄部分をどのくらい少なくできるかというお話もありました。

どのご家族もお母様



お母さんが手をとって教えてくれたら、この後は自分で切れるようになりました。

がうまくリードして、小さいお子さんにも包丁を持たせたり、炒め物も任せたり、とても良い食育の場になりました。エコについて考えながら調理することはもちろんですが、自分が作って食べる喜びがとても大きかったようです。はじめは包丁を持つ手が危なっかしく感じましたが、すぐに手慣れていきました。いつも一緒に台所に立っているという親子は、お子さんの手つきも素晴らしかったです。

料理教室では手元をみながら手話も見ると大変さがあります。あらかじめお子さんたちに手話通訳について尋ねると、皆さんが必要だと答えてくれて嬉しかったです。人工内耳で育ってきた女の子は、昨年、同じ聞こえないお友達と出会って手話を学び始めたそうです。このような場の大切さを改めて感じました。

☆研修室ブランド交換☆

令和四年二月に研修室のブラインドがカーテンとロールスクリーンの二重構造に変わりました。

断熱、遮断、換気が向上しました。快適に研修室をご利用いただけるでしょう。



タツノオトシゴ

メールやLINEが生活の中で当たり前の存在になって幾年。LINEの既読を見れば相手が読んだのかさえわかる。InstagramやFacebookなどのSNSを見れば、連絡をとっていない相手が元気なのか、今、何に興味を持っているのかもわかる。気軽に連絡できて、すぐ返事がもらえる。便利でスピーディーな世の中になった。

一方で、手紙が恋しくなる時もある。便箋と封筒、ペンを用意し、文章を考えながら書き、投函するまでに時間を要する。返事はいつ来るかわからない。でも郵便受けに、手紙を見つけたときの、ワクワクした気持ち。相手も自分と同じように手紙を書くことに時間を費やしてくれた喜びは、手紙ならではの良さだ。

日々の生活に追われ、なかなか書けずにいるが、花の便りに心をはすませながら、手紙を書く時間を大事にしたい。（M・O）